

# 小豆島の高校生たちとの交流



2024年11月16日、小豆島プロジェクトは小豆島中央高校の「しまのみらいプロジェクト」が観光マップ作成に向けて考えたモデルコースと一緒に巡るため、小豆島に訪れた。小豆島の高校生と行動を共にするため、一緒にモデルコースを巡り交流を深めつつ、島民視点での秋祭りへの思い、姉妹都市に関する認知度拡大、小豆島の暮らしなどを知ることとを目的として活動した。

## 高校生との交流

# 小豆島プロジェクト活動報告 しまはらさん企画編

文章  
琴浦英杜

## しまのみらい プロジェクトとは？

小豆島中央高校の高校生が中心となって活動している組織であり、地域の団体と連携を取りつつ、小豆島の魅力を探したり、地域課題の解決に向けて取り組んだりと小豆島の活性化を行っているプロジェクトである。

## 開催までの道のり

どのようにして島民の秋祭りへの思いを聞くか、そして姉妹都市交流に繋げるのかという段階から始まった。そのような時に、しまのみらいプロジェクトという存在を聞き、小豆島の高校生から島に対する様々な思いを聞けると同時に、まだ知られていない小豆島の魅力発信に結びつくと考え、ミーティングを通して当日に向けた準備を行った。

# 小豆島の魅力を発見！

## 当日の様子

当日では、2チームに分かれてモデルコースを巡った。実際に訪れた場所は、二十四の瞳映画村や西山石材でのキーホルダー作成、エンジェルロード、ヤマロク醤油での工場見学などである。

二十四の瞳映画村とは、小説家の壺井栄が原作である映画「二十四の瞳」のロケ地を改装したもので、映画内での数々の名場面が撮影された場所である。

映画村内(※右の画像)では、



「せんせとあそぼ」と呼ばれる作品内の大石先生と一緒にじゃんけんができる写真スポットがあり、実際に高校生と共に撮影をして、登場人物の気持ちになれる空間だと実感できた。

ヤマロク醤油とは、島内で醤油を生産する企業であり、酵母菌や乳酸菌の発酵に適した小豆島特有の温かく乾いた風を活かして、全量木桶仕込みで醤油製造をしている会社である。

工場見学(※左の画像)も実施しており、高校生と一緒に天然もろみ蔵の見学をするなかで、小豆島の特産品の1つである醤油の製造現場を学ぶことができた。

モデルコースの移動手段はバスが中心となっていたが、便数が少ないため、移動に時間を要する難しさを学んだのに加えて、バスの待ち時間で高校生と会話を通じた交流の時間に繋がった。



## 島民の価値観を知る..

### 高校生の思い

モデルコースを巡る道中で高校生側から大学生活に関する質問があったり、小豆島プロジェクト側から小豆島での暮らしを質問したりと互いに交流を深めることができた。

特に、秋祭りへの思いを聞いたのが印象的であり、小豆島で育った高校生と移住してきた高校生では、秋祭りへの参加が毎年であったり、1回のみであったりと様々な思いを聞け、秋祭りに対する島民の価値観を確認できたと共に島民の声を直に聞ける貴重な機会となった。

### 今後の活動方針

今後は、小豆島と茨木市との両都市の子どもたちや高校生と姉妹都市交流を通して、お互いの魅力が伝わるワークショップの開催を考えている。具体的には、小豆島と茨木市の特産品を使用した親子が揃って楽しめる「ものづくり体験イベント」を考えている。

### 編集後記

自分にとって本活動が初めての小豆島訪問となった。個人的には島民の方々と直接的に関われたのが貴重な経験で嬉しかった一方で、自身の行動に対する反省点が多い一日でもあった。

前者については、しまのみらいプロジェクトに所属している高校生と関わったのは言うまでもないが、板倉良三さんだったり、社会福祉法人サンシャイン会の川西剛さんだったり小豆島プロジェクトがお世話になっている方々と直接お会いすることができて良かった。

後者については、高校生への質問内容と一緒に島訪問をした先輩方と比べて、限定的になってしまったため、予め本活動の目的を踏まえて、どのような質問をして企画に貢献するのか整理しておくべきだったと感じた。また、ただ単にしまのみらいプロジェクトが作成したモデルコースに参加する結果となり、自分から茨木市の魅力を発信して、お互いがより良い活動結果を生み出す行動を示すべきだったと反省した。

以上の内容より、本活動での貴重な経験を無駄にせず、反省点を次の行動に活かし、姉妹都市交流に貢献したい。